

日本化薬グループの事業

日本化薬グループの主となる4つの事業をクローズアップし、社会に貢献する技術を活かした開発製品などを紹介します。より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/company/business/>



機能化学品事業

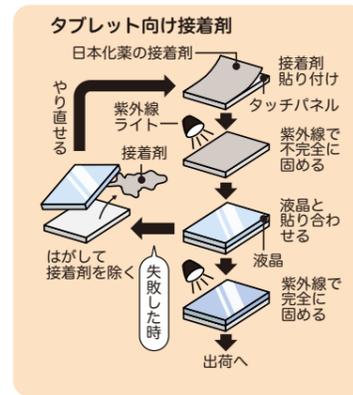
TOPIC タッチパネル・液晶の貼り合せ技術「KSPシリーズ」の開発

日本化薬はタブレット(多機能携帯端末)のタッチパネルと液晶パネルを貼り合わせる工程で、製品の歩留まり*1を向上させた無溶媒系のアクリル系接着剤「KSPシリーズ」を開発しました。

「KSPシリーズ」は紫外線を当てると固まるアクリル系接着剤です。タッチパネル側に「KSPシリーズ」を薄く塗布し紫外線を短時間当てて仮硬化後貼り合わせることで、気泡やホコリ等

の異物混入が発生した場合にタッチパネルと液晶パネルを再生できるように剥がして貼り直すことができ、上手く貼れたものだけに紫外線を当て完全に固めます。

これにより同工程での歩留りを従来比で約3割向上*2させ、不良品廃棄部材を大幅に減らし省資源化に貢献できます。無溶媒系接着剤は環境と人にやさしい製品です。



*1【歩留り】原料(素材)の投入量から期待される生産量に対して、実際に得られた製品生産数(量)比率。
*2【従来比で約3割向上】社内比較。



医薬事業

TOPIC Speciality, Biosimilar & Generic, plus IVRファーマヘ

日本化薬は、がん治療や関節リウマチ治療で重要な役割を果たしている医薬品のバイオシミラーを最優先課題として早期の事業化を実現することにより、患者様やそのご家族、医療関係者の皆さまに一層貢献することを目指していきます。

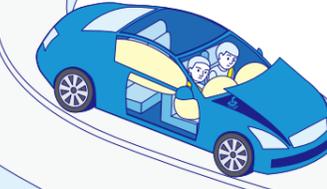
バイオシミラーを幅広く提供することで、「いつでも、どこでも、誰でも」より良い医療、質の高い医療を

等しく受けられる社会を実現したいと考えています。

また、2010年に第3の柱として進出を果たしたIVR*3(Interventional Radiology)分野については、12年度、3製材をラインアップに加えました。がん領域を中心に患者様の身体的負担が少ないIVR治療(低侵襲治療)の提供によって社会に貢献していきます。



*3【IVR】「血管内治療」、「血管内手術」とも言われ、エックス線透視や超音波像、CTを見ながら体内に細い管(カテーテルや針)を入れて病気を治す治療法です。



セイフティシステムズ事業

TOPIC さらに安全をグローバルに

自動車の安全技術は年々飛躍的な進歩を遂げており、近年ではエコ性能に加えて安全性能は自動車を購入する際の選定を動機付ける大きなポイントとなっています。

自動車の安全技術は、事故を回避するための予防安全技術と、事故が発生した際の被害を軽減する衝突安全技術に分けられます。

自動車事故の際、乗員の安全を守る衝突安全技術にはいくつかの要素があ

りますが、自動車エアバッグ、シートベルトはその中でも重要な位置を占めています。

このような環境の中、日本化薬は従来から培ってきた火薬の技術を応用し、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用および歩行者頭部保護を目的としたポップアップフード用マイクロガスジェネレータをグローバルに開発・製造・販売し、世界中の自動車の乗員の安全に貢献しています。



アグロ事業

TOPIC ダイアジノン粒剤発売50周年

2014年、アグロ事業部の主力製品のひとつ、ダイアジノン粒剤*4が初めて農業登録を取得してから50周年を迎えます。ダイアジノン粒剤は、「畑の常備薬」として、さまざまな農作物の害虫防除にご利用いただき、広く根強いご支持をいただいております。

現在、ダイアジノン製品のラインアップは、主力の5%粒剤をはじめ、3%粒剤、10%粒剤、乳剤、水和剤、マイクロカプセル製剤、エマルジョン製剤と、農産物生産現場の農業使用

場面に合わせて拡充されています。

これは、単なる「歴史」ではなく、長年培った防除技術や製剤技術が温故知新の精神として受け継がれ、近年、若返ったアグロ研究所の発想力との融合により、アグロ事業部の新製品創出の礎ともなっています。

農産物を病虫害・雑草から守り、生産者の労力を軽減する農業、食物生産を助けるこれらの資材にも日本化薬グループの技術が活かされています。



*4【ダイアジノン粒剤】カヤクダイアジノン粒剤3は、農林水産省登録 第6193号 昭和39年5月4日農業登録を取得。現在は、ダイアジノン粒剤3(農林水産省登録 第7288号)と商品名を改めています。